

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

「みどりの窓口」臨時増設50駅に拡大

京葉線9月ダイ改・窓口廃止方針凍結、「異例の修正」続く

【繁忙期の窓口臨時増設駅】（7月9日発表）

◇窓口を全廃した駅→6駅で臨時窓口を開設

川口、北朝霞、南越谷、川越、久喜、北千住

◇窓口を一部閉鎖した駅→44駅で窓口数を増やす

①関東エリア

蒲田、柏、鶴見、武蔵小杉、武蔵溝ノ口、登戸、横浜、戸塚、大船、平塚、小田原、伊東、吉祥寺、三鷹、国分寺、立川、八王子、大月、甲府、大宮、宇都宮、高崎、水戸、勝田、いわき、市川、船橋、津田沼、新浦安

②東北エリア

山形、仙台、古川、郡山、新白河、一ノ関、八戸、秋田、弘前

③信越エリア

松本、長野、上田、佐久平、軽井沢、新潟

JR東の喜勢社長は7月4日、夏の繁忙期に臨時で復活させるみどりの窓口の駅数を、当初計画の15駅から50駅に拡大すると発表しました。
会社は「みどりの窓口7割削減」方針の下、窓口を次々に減らしてきました。しかし、今年3～4月に大混雑が発生し、多くの苦情が寄せられました。結局5月8日、喜勢陽一社長が会見で謝罪し、窓口削減方針の凍結と、

当面は現状維持とする方針を発表せざるを得なくなりました。
その後、わずか2ヶ月で復活させる窓口の数も増えることになりました。「異例の修正」が続いています。
「鉄道軽視」の矛盾が明らかに
一方、会社は窓口廃止の方針はあくまで維持しています。駅業務を鉄道業務ではなく、「いかに稼ぐか」に転換させる攻撃も継続されています。
乗務員に対しても、「鉄道ありきで考えるな」とジョブローテーション、駅業務や運転士・車掌の兼務化などの業務融合化攻撃が続けられています。
しかし、会社の鉄道軽視の矛盾は安全問題や京葉線ダイ改などでもあらわになっています。
同じ攻撃である以上、業務融合等の職場の攻撃も打ち破ることができません。そして、職場から労働者が声をあげ、闘いにたち上がってこそ、その問題と矛盾を社会的に明らかにできます。
攻撃を打ち破る力は、現場の団結と闘う労働組合です。

結と闘う労働組合です。